

学校園名	宝塚市立 仁川 幼稚園
------	-------------

1 学校教育目標

心豊かに たくましく生きる子どもの育成 ◇自己を発揮し、明るく元気に遊ぶ ◇力いっぱい挑戦し、最後までやり抜く ◇心を動かし、互いに思いやり支え合う

2 重点目標

<ul style="list-style-type: none"> 主体的に考え、活動する幼児の育成に努める。 豊かな感性を育み創造力、思考力、道徳性の芽生えを培う。 安心・安全な幼稚園づくりに努め、基本的な生活習慣と態度を育成する。 幼稚園と家庭、地域、保育所及び小中学校との連携を密にし、相互理解を深める。
--

3 学校自己評価結果（A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善）

領域	評価の観点及び評価項目	達成状況	学校の取組状況・改善の方策	4 評価項目ごとの学校関係者評価
学校運営	開かれた幼稚園づくり	B	<ul style="list-style-type: none"> 毎日のスライドショーで園児の様子を放映すると共に、週3回のお迎え広場の実施を継続した。 人数制限なしで保育参観、行事参加を実施でき、多くの方に園児の様子を見ていただけた。 ドキュメンテーションを活用し、保護者に園児の様子や育ちを配信したり、掲示したりして情報発信に努めた。 ホームページの更新が後半十分でなかった。次年度の課題としたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 園児たちの遊びや生活の様子を写真とコメントのドキュメンテーションで掲示していたのがよかった。 保健からの掲示物も多く、特に食育については、親も見ていて楽しく参考になった。野菜チャレンジのワークシートも食べ物の好き嫌い克服につながっている。 新型コロナウイルスが5類に移行し、幼稚園ならではの楽しい行事内容になってきたと感じ、親子共に楽しめた。
	安全危機管理体制整備 保健衛生管理	A	<ul style="list-style-type: none"> PTAと共催で交通安全教室を開催できた。 安全・防災マニュアルに基づき全職員で共通理解を図りながら、様々な想定で避難訓練を定期的実施した。また、年度末には園児に予告なしの訓練を実施した。 保健衛生では食育の一環として毎週水曜日の野菜デーの実施、発達段階に応じた手洗い・うがい指導等、各種保健指導に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して定期的に行う訓練は、継続することで、園児たちの「自分の命は自分で守る」という意識につながっている。 子どもは野菜デーで学んだことを家に帰ってから喜んで伝えてくれると共に少しずつ様々な食材を食べるようになり、嬉しく思う。
	子育て支援の推進	B	<ul style="list-style-type: none"> マニュアルに則りながら、できる限り預かり保育を実施した。 PTAと協力して「なかよしひろば」「ふれあい学級」を実施し、未就園児親子も参加して楽しい集いの場となった。 アプリでのドキュメンテーション、おたより、個人懇談等で、個や集団の育ちについて発信し、保護者と共に考えることができるよう努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 未就園児親子への園庭開放は、在園児のきょうだいの利用が多く、在園児でない方々も広く利用できるように広報したり、時間帯を工夫したりするなどの方策を更にとるとよい。
	教職員の資質向上	B	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に保育カンファレンスを実施し、幼児の「自分からやってみる・決める・つながる」が溢れる保育に努めた。今後も今日の保育の振り返りと明日の保育の見通しを明確にしながらかつていて教師間で連携して保育にあたる。 日常の保育やキラキラタイム(遊びの振り返り)にICTの活用を推進した。 近隣保育園や小学校教諭との授業参観、懇談会による保幼小の研修を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども主体の保育を常に模索しながら、充実した保育内容になるよう努めている。 子どもたちの遊びの振り返りや探求心の育みなどにICTを活用しており、園児が自然に生活の中でICTにふれる環境は、小学校以降の学習にも無理なくつながっていくと感じる。

教育課程	<p>幼児期にふさわしい生活の工夫</p>	<p>・3・4・5歳児の発達年齢に即した主体的に学ぶ力や人とつながる力の育成</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 3・4・5歳児の縦のつながりを大切にされた保育内容の実践に努めている。憧れや意欲、思いやりの気持ちにつながっている。 ○ 幼児の興味関心に沿った遊びの環境の充実に努め、主体性の発揮につなげていった。自分たちで遊びや生活を進めていこうとする気持ちにつながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 戸外で季節を感じられる遊びが多いことや子どもたちの自主性を大切にされた保育に共感している保護者は多い。
	<p>基本的な生活習慣の育成及び道徳性の芽生えの育成</p>	<p>・生活習慣の確立 ・発達に応じた道徳性の芽生えの育成</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 衣服の着脱や身辺整理、遊びの片付け、食事等、家庭とも連携しながら進めていくことで、自分でのことは自分でしようとする心や態度が育ってきている。 ○ 困ったことがあっても、仲間と助け合い支え合って乗り越えようとする気持ちが5歳児を中心に育ってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分のことは自分でできる自立の力を育んでいると感じる。 ○ 1年間を振り返ると当初に比べ、自分から物事にかかわる姿が見られて嬉しく思う。 ○ 学年ごとに発達に適した内容で、子どもたちが、あきらめずに挑戦し達成感を味わえるような保育の工夫をしている。
	<p>校種間連携</p>	<p>・近隣保育所・小学校との交流</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小中学校への学校見学や給食交流、和太鼓交流、小学校栄養教諭による食育出前授業、トライやるウィーク、また英語科教諭による出前授業を開催し、小学校への期待や小中学校の先生やお兄さんお姉さんへの親しみや憧れの気持ちにつながっている。 ○ プレ1年生の近隣幼保5園の交流を継続すると共にウエル保育園との定期的な交流を実施している。 ○ 宝塚第一中ブロックの管理職連携協議会を定期的にもち情報交換を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルスの5類移行に伴い、公立ならではの小中学校や近隣の幼稚園・保育園との交流の機会が沢山増え、子どもたちにとって、横や縦のつながりが感じられるよい1年となった。
課題教育	<p>人権教育の推進</p>	<p>幼児期にふさわしい人権意識の育成</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日常の何気ない遊びや生活の中で起こる問題に（言葉の暴力、決めつけ等）まず教師が気づき、子ども自身が振り返り考えられるような支援に努めた。また、そのことをカンファレンスで伝え合い日々の保育に活かせるように努めた。 ○ 異年齢交流を通して、思いやりの気持ち少しずつ遊びや生活の中で育まれてきている。個の自立と共に仲間と支え合う関係性がさらに広がり、深まるように努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 遊びや生活の中で、自分の気持ち、相手の気持ちについて、子どもがしっかりと考えるようになり、小動物や虫や花に対しても少しずつ思いやりをもてるようになってきたと感じる。 ○ 子どもたちは異年齢で遊ぶことでいろいろな立場を経験することができ、そのことが相手の立場になって物事を考える力につながっていく。 ○ 人権教育の重要性について、引き続き保護者啓発を図っていく。
	<p>特別支援教育の充実</p>	<p>個別の教育支援計画指導計画に基づいた幼児の発達に即した支援内容の工夫</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 特別支援教育園内委員会で支援を要する子どもたちの実態について共通理解し、具体的な目標や手立てについて協議し、共有することができた。また、就学に向けた小学校との引継ぎ連携に努めた。 ○ 療育施設と連携し、訪問指導の機会を捉えて情報共有をしたり、ふさわしい支援について協議したりすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個々の支援計画、指導計画を立てて、日々の記録を録り、成果や課題につなぐという丁寧な取組をしている。 ○ 療育施設との連携は、教師が互いの指導に役立てている取組となっているだけでなく、保護者の安心感にもつながっていると感じる。
独自項目	<p>未就園児の居場所づくり</p>	<p>遊びの広場の充実</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 副園長を中心に未就園児親子遊びの会「プチいちご」を月2回実施できた。子ども同士のつながりと共に、保護者同士のネットワークづくりにもつながっている。 ○ 未就園児親子教室プチいちごを月2回開催した。2学期後半からは在園時との交流活動を徐々に増やしていくように努めた。 ○ 朝の園庭開放についてさらに発信していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 園庭開放については、在園児の縦割りの遊び「おひさまタイム」に未就園児も一緒に参加できる楽しい時間となっている。ぜひ在園児でない方々にも広く利用できるように、更なる情報発信や利用できる時間帯の工夫を講じるとよい。

地域連携	まちづくり協議会 等地域組織との連 携	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の太鼓の先生に指導に来ていただき、5歳児を中心に「にがわっ子太鼓」の取組が定着してきた。また、関西棋院の棋士の先生による囲碁教室も園児たちの楽しみとなっている。 ○ ハイキング、祭り、とんど、等、地域・保護者の協力により、子どもたちの体験が広がっている。 ○ 地域みんなの先生による太鼓、手品、琴、読み聞かせなどの温かいかわりを今後も大切にしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域で育つ子どもたちが、様々な場で地域の方々と触れ合えることは素晴らしいことである。 ○ 地域の方々との集いの場が一気に増えて、様々な機会に温かいかわりができつつあると感じる。今後も更に人とのかわりが広がり深まっていくことを願う。
------	---------------------------	---	---	--

5 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

保護者アンケートの結果をふまえた幼稚園の自己評価を基にして、学校関係者評価委員会で協議するという適切な方法で、実施できている。また、アンケートの意見・感想に対しても丁寧にフィードバックしている。

6 総合的な学校関係者評価

アンケートの集計結果や園の様子等から、園児が健やかに逞しく成長し、順調に園運営が進んでいると感じる。教師・保護者・地域が手を携えながら子どもたちを育てている温かい幼稚園である。

新型コロナウイルス感染症が5類へ移行となり、今までのコロナ禍で得たことが活かされ、子どもたちにとって必要なことを厳選しながら、行事、保育内容、地域の方々とのかわりや異校種との交流・連携に取り組む姿勢は、保護者の方々にも伝わり、信頼や理解につながっている。